釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）６月24日発行　VOL 13

月曜日の朝

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

本校に着任してから８時20分ぐらいから８時25分の約５分間ですが、登校してくる生徒と校門の付近で挨拶を交わしています。わずか５分間程度ですが、20人から30人ぐらいの生徒と挨拶を交わすことができます。立ち止まって頭を下げ、元気に「おはようございます」と言ってくれる生徒、眠そうな表情で「おはようございます」をつぶやく生徒、頭だけ下げる生徒、何かあったのか無言で校舎に向かう生徒、様々な登校の姿が見られます。宿泊研修や修学旅行の前は、自分たちでつくるカレーライスのことを教えてくれたり、自主研修のコースを紹介してくれたりしましたが、先週から浮かない表情で登校してくる生徒が増えました。明日から始まる今年度最初の定期テストに向けて連日の猛勉強の疲れが出ているのでしょうか、または、そのプレッシャーに押し潰されそうになっているのでしょうか、とにかく表情が冴えません。特に、月曜日の朝は、定期テストの有無に関係なく倦怠感いっぱいで登校してくる生徒が多くいます。

数年前、ある中学校に、月曜日の朝から訪問する機会がありました。８時に学校に着いたので、先生方に混ぜてもらって、校門で生徒たちを出迎えました。月曜日の朝ということもあり、本校同様、出足が鈍い生徒もいました。校門からそのまま、３学年の教室に向かいました。８時30分から朝の会でした。学級担任が校歌の伴奏が入ったＣＤを流します。生徒たちが歌います。他の教室からも校歌を歌う声が聞こえてきます。ＣＤに合わせて生徒たちは元気よく歌います。学級担任も一緒に歌っています。「いいなぁ」と思いました。学級担任が笑顔で生徒たちと一緒に歌っていたからです。

学級担任が一緒に歌うのは当たり前、と保護者や地域の皆さんは思うかもしれません。しかし、かなり難しいことだと私は思います。月曜日の朝、出足が鈍いのは、生徒たちだけではありません。教師もです（少なくとも私は鈍いです）。週の始まりの月曜日の朝です。ＣＤという助けがあり、生徒たちが主体的に歌うのであれば、その間に、１時間目の授業準備、事務作業をしたくなります（私なら確実にそうします）。

でも、生徒たちからすれば、学級担任が他のことをやっていて、自分たちの歌を聞いてくれないより、一緒に笑顔で歌ってくれる方が嬉しいと思います。月曜日のどんよりした朝に、気持ちを切り替えることができます。実際に、この学級の生徒たちは、元気でした。１時間目の数学の授業で二次方程式の応用問題に積極的に取り組んでいました。

仮に本校において、朝の会で校歌を歌うことになったら、全ての学級担任は生徒と一緒に歌いたいと思います。でもなかなかできない、その最大の要因は「忙しさ」です。カリキュラム・オーバーロードという言葉をよく耳にしますが、とにかく教師は多くのことを抱えています。いつも優先順位を気にして業務を進めています。しかし、学校教育は物事をこなす、消費する場ではありません。何かに追われて焦って走り出す前に、「月曜日の朝、生徒と一緒に校歌を歌う」ことの意味や価値を丁寧に同僚と共有していく、そういう当たり前のことを大事にできる学校文化づくりを大切にしていきたいと思います。